



## 法学部第一期生と ゼミ連の発足について

第2・6代法学部同窓会会長

増田 省三

法学部法律学科

1972（昭和47）年卒業

龍谷大学は2019年に創立380周年を迎えます。1639年の創設以来、連綿と継続され、全ての記録が残る現存日本最古の大学です。

私の入学時（1968年4月）には、大学自治の問題や学費値上げ反対闘争などから始まった学園紛争が序々に全国に広まりつつある時期でした。

深草キャンパスも1968（昭和43）年後半から4年近くに亘ってデモや全共闘系の学生によるバリケード封鎖が断続的に行われ、学内に投石や火炎瓶が飛び交う事態もありました。

一方わが法学部は当初から、1～2年生時は基礎演習、3～4年生時は演習というゼミが全員必修でありました。まだ新しかった法学部はこのゼミを通じて法学部を良いものにしたいという意識が強く、教員と学生に強い連帯感があったように思います。

私が3年生になった時、全てのゼミナールの代表者からなる相互の連絡組織として「ゼミナール連合会」を結成し、囃らずも私が初代の議長となりました。

当時おもな大学では学園紛争がピークとなり、政府が「大学の運営に関する臨時措置法」を立法化し、法律で大学全体を管理しようとした事から、わがゼミ連も各ゼミの意見を集約し、学生として「反対声明」を出したりしました。また、学内が騒然とする中「学生研究論集」の発行や後輩達向けにそれぞれのゼミの代表者が「ゼミ紹介」を行うという活動もしました。

就職活動で企業等の面接時には「在学中の主な活動」や「ゼミで何を学んだか」については今も必ず問われることでしょう。

現在の法学部同窓会組織は、この「ゼミ連」が卒業時に設立母体となったものです。同窓会になってからは今も続く「全国無料法律相談」や「各種講演会」等の事業を各地で共催し、地元の卒業生にも支援を頂いているのです。

1969(昭和44)年6月の、全共闘による15号館バリケード封鎖  
(写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年)

